

# 新たな地域福祉考える

## 香南市 全国集會に250人

【香長】高齢者介護や障害者就労など、地域の実情に合わせた支援について考える全国集會が11日、香南市野市町西野の「のいちふれあいセンター」で開かれた。自治体や社会福祉協議会関係者ら約250人が、全国各地の取り組みや県が進める「高知型福祉」の在り方について考えた。(谷川剛章)

県、日本福祉大学など 児や母親の交流の場などの主催。中山間地の多い 地域ニーズに合った実情に即し県が昨年度に サービスを提供する。8 制度化した「あつたかふ 月末現在、29市町村38方 れあいセンター」の整備 所で事業を実施、110人を 促進や課題を検討し、全 新規雇用している。

国の事例からよりよい地 集會ではまず、日本福祉大学の平野隆之教授が 域福祉を学ぼうと企画し 基調講演。平野教授は

同センターは国のある 「利用者を区別せずニ ーと雇用再生特別基金事 ズにに応じてケアし、かつ 業を使い、利用者を限定 離職者を雇用して支援 しない多機能型施設。市 し、地域ぐるみで対応す 町村から運営を受託した るのが高知から始まる新 団体が補助金で職員を新 しい支え合いの形」と評 規雇用し、介護予防、障 害者の生活支援、未就学 価。県の取り組みについ て「柔軟で持続可能な制

度にし、中山間地で必要 活用した地域福祉や他県 な仕組みなんだ、という の取り組みなどを議論。 ことを全国に発信してほ 参加者は課題を共有し、 しい」と訴えた。 地域の暮らしを支える新 その後、分科会やシン ぽジウムで民家や廃校を た。 たな方法について考え



地域福祉の新たな支え合いの形について考えた全国集會 (香南市野市町の「のいちふれあいセンター」)